

裏方の奔走 ～2001 世界卓球選手権～

江崎 勝久 1964 年 神戸大卒

卓球を通じて最も思い出深いのは、大阪市で 2001 年に開かれた世界卓球選手権大会です。大阪卓球協会の会長として資金集めに奔走し、国際大会を無事に運営しました。

大学卒業後は仕事に忙しく、卓球からは長く離れていました。1998 年当時の大阪卓球協会会長は、世界選手権で 6 回優勝し、世界卓球殿堂入りも果たした江口富士枝さん。すでに 2001 年の世界選手権の誘致に成功し、3 年後の大阪開催は決まっていました。ただ、資金集めに苦労されており、大阪の企業人である私に白羽の矢が立ったようです。当時の日本卓球協会長でセコム創業者の飯田亮さんから、かねてから懇意にしていた大林組会長の大林剛郎さん（のちに日本卓球協会長）を通じて「大阪の会長に」と打診がありました。

1999 年に会長職を引き受けたものの、私は大阪で開催されることさえ知らない有り様。聞くと資金集めの目標額は 1 億円といい、これは大変だと面食らいました。大阪市が一部負担してくれるとはいえ十分ではありません。まずは人脈をたどって大手自動車会社に「メインスポンサーになっていただけないか」と頼みました。自動車レースへの参戦やサッカー国際大会の支援など、世界的なイベントに積極的な企業のため期待をしていましたが、「方針にあわない」とゼロ回答。少額を出して紹介者の顔を立てることはせず、きっぱりした態度にむしろ感心しました。続いてお願いしたのが松下電器産業（現・パナソニック）。自ら対応していただいた社長と副社長が「数百万円なら」と協力を約束してくれました。その後もスポンサー探しに駆け回り、ようやく大手クレジットカード会社の JCB がメインスポンサーに決まりました。

開会式には、秋篠宮ご夫妻が出席されることになりました。本来であれば日本卓球協会会長である飯田さんをご案内するべきなのに、なぜか当日、「江崎さん、頼んだ」と言って東京に帰ってしまった。この大会から従来の 38mm 球が 40mm 球に変わりましたが、卓球から長く離れていた私はルール変更も選手の名前も詳しく知りません。分厚い資料を手を冷や汗をかき、試合を観覧されるご夫妻の隣に座っていました。磯村隆文・大阪市長がご夫妻を招待した昼食会にも同席させていただくなど貴重な体験の連続で、会長職はその後、2014 年まで務めました。

大学時代の思い出としては、2 年生の時に神戸大が関西学生リーグの 3 部から 2 部に昇格できたことです。仲間と喜び合ったのを今でも覚えています。私自身は決して上手な選手ではありませんでしたが、卓球を通じて人脈が広がり、1 人では成しえなかった経験ができたことは何よりの財産です。2021 年の東京五輪では水谷・伊藤選手が金メダルを獲得するなど若手選手の活躍は目覚ましく、卓球は今では人気スポーツの仲間入りをしました。大阪での世界選手権ではマスコミの取材もなく、注目度の低かったことを思うと感慨深いものがあります。これからも卓球界の発展を切に願っています。